

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覽

2000年度



2001年3月

富山県小杉町教育委員会

例 言

1. 本書は、平成12年度に実施した埋蔵文化財分布調査及び発掘調査の概要をまとめたものである。
2. 埋蔵文化財調査に係る事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、調査事務を文化財保護係長 古城久則が担当し、生涯学習課長 御後庄司が総括した。
3. 本書に収録の調査は、生涯学習課文化財保護係の原田義範・稲垣尚美が行った。
4. 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、調査から報告書作成に至るまで次の方々や諸機関から教示・協力を頂いた。記して謝意を表したい。(敬称略 五十音順)
池野正男・伊藤隆三・上田尚美・上野 章・狩野 睦・久々忠義・小島俊彰・小林達雄・酒井重洋・島田修一
島田美佐子・高梨清志・戸谷邦隆・藤田富士夫・古川知行・三島道子・宮田進一・山内賢一・山田昌久
5. 調査を実施した遺跡の出土遺物は、小杉町埋蔵文化財整理室で整理を行い、遺物・原図・写真類は小杉町教育委員会が保管している。
6. 本書作成に係る復元・実測・トレースなどの諸作業は金瀬ますみ・吉島正喜・開 一美・堀埜実津子・安田久実代・吉沢泰子が行った。
7. 本書の編集・執筆は原田・稲垣が行った。

目 次

1. 開発事業に対する埋蔵文化財の取扱い	1	黒河西山遺跡 (NO.6)	9
2. 平成12年度の概要	1	塚越大沢Ⅱ遺跡 (NO.5)	10
3. 分 布 調 査	3	塚越大沢遺跡 (NO.7)	10
4. 試 掘 調 査	4	畑総No.17遺跡 (NO.13)	10
加茂社遺跡 (NO.1)	5	H S - 0 4 遺跡 (NO.10)	11
加茂社遺跡 (NO.8)	6	H S - 0 3 遺跡 (NO.11)	11
加茂社遺跡 (NO.9)	6	針原西遺跡 (NO.15)	12
加茂社遺跡 (NO.14)	7	5. 本 調 査	13
小杉伊勢領遺跡 (NO.3)	7	水蔵場D遺跡 [NO.1]	13
上野北遺跡 (NO.2)	7	針原西遺跡 [NO.2]	15
塚越貝坪遺跡 (NO.4)	8	6. 普 及 ・ 活 用	18
塚越貝坪遺跡 (NO.12)	9		

※遺跡名右側のNo.は () が試掘、 [] が本調査の一覧表の番号を示す。

凡 例

1. 本文中、発掘区図版の試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し種類は次のとおりである。
● 縄文土器 ▲ 石器・石製品 □ 弥生土器 ▽ 土師器 △ 須恵器 ■ 珠洲
☒ 中世土師器 ◎ 木製品 ○ 中世陶器・磁器 ◇ 鉄滓 ⊗ 近世陶器・磁器 T トレンチ

※表紙写真は針原西遺跡 (町道東老田高岡線) の男根形木製品出土状況

1. 開発事業に対する埋蔵文化財の取扱い

小杉町では、埋蔵文化財の取扱いを富山県埋蔵文化財発掘調査基準に準じて行っている。調査は分布調査・試掘調査・本調査の3つに大別することができる。

分布調査は未踏査地及び埋蔵文化財包蔵地隣接地を踏査することにより遺物採集を行い、現在の地形から過去の地形を読み取り、対象地が埋蔵文化財包蔵地内に位置するか否か判断する方法である。この調査によって埋蔵文化財包蔵地外であると判断した場合は計画どおり工事を進めて良いが、包蔵地内である可能性が認められた場合ならびに富山県埋蔵文化財包蔵地地図の中で既に周知の包蔵地内とされている土地については試掘調査を行う。

試掘調査とは対象地内に重機や人力で幅約1mの試掘溝を設け、その断面観察により旧地形及び遺構確認を行うとともに、遺物の出土状況を考慮し遺跡であるか否かを判断する。この調査結果から埋蔵文化財包蔵地外であると判断した場合は計画どおり工事を進めて良い。ただし、遺跡内であると判断した場合は教育委員会と今後の土地利用等を含め協議のうえ、本調査あるいは保存のいずれかの方法を取る。(稲垣)

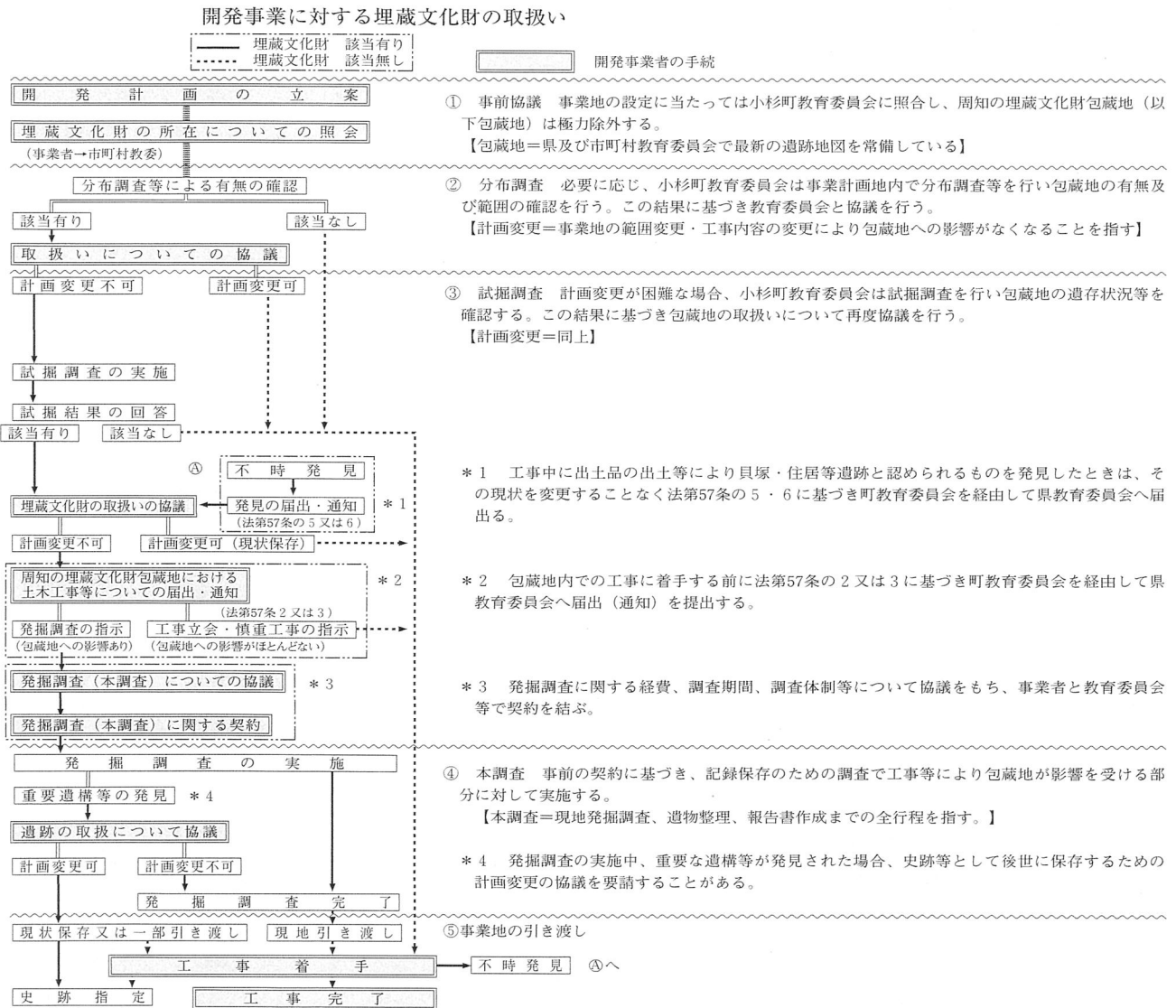
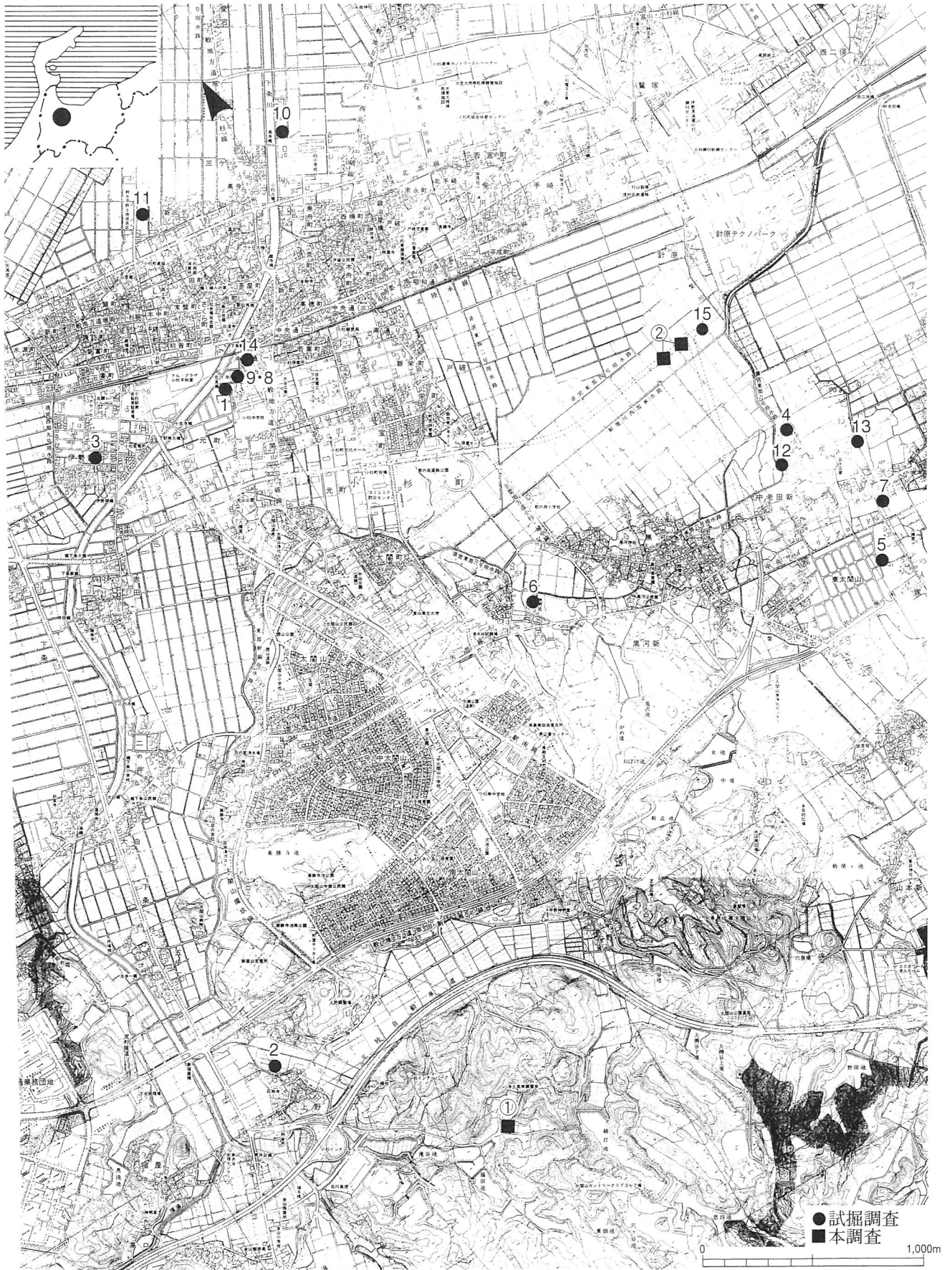


表1

2. 平成12年度の概要

平成12年度に小杉町教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布・現地確認調査22件、試掘調査15件、本調査が2件であった。昨年度と比較すると分布・現地確認調査が減少した。本年度の調査の傾向としては、分布・現地確認調査の主な事業内容は住宅建設など個人事業であるが、試掘調査になると7割が公共事業であり本調査においてはすべて公共事業である。

調査・整理体制は町の調査員2名と臨時整理作業員6名で行い、5~12月までは本調査と調整を図りながら随時分布・現地確認調査、試掘調査を行うとともに報告書作成に取り組んだ。



第1図 調査位置図 (1 : 20,000)

3. 分布調査

分布調査とは、調査員が現地を踏査し遺物の散布状況と現在及び過去の地形（ほ場整備前の地図などを利用）から埋蔵文化財包蔵地の範囲を推定することをいう。

県教育委員会文化財課より農地の地目変換に伴い分布調査の必要性が認められた場合は、「農業振興地域整備計画の変更に係る埋蔵文化財の取扱いについて（通知）」や「農地転用の許可に係る埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて（通知）」により毎月照会がある。町ではこれを受けて事業者へ通知し、埋蔵文化財の取扱いについて説明し合意のうえ調査を行う。

また、公共事業及び民間の各種開発に先立ち関係機関や事業者から問い合わせがあった場合は、事前に協議し埋蔵文化財包蔵地の隣接地や未踏査区域においては分布調査を実施している。

本年度埋蔵文化財包蔵地及び隣接地などで調査依頼があった件数は22件（公共事業1件、民間事業21件）で、事業別内訳は学校建設1件、個人住宅及び個人格納庫・資材置場17件、営農組合の格納庫1件、店舗1件、駐車場1件、携帯電話基地局1件である。ここ10年間で宅地造成に係る調査が行われなかった年は初めてである。

周知の埋蔵文化財包蔵地は小杉町全図(1万分の1)に記載され、町教育委員会の窓口に備え付けられており、分布調査で新たに発見された遺跡は登載し、その後周知の遺跡として取扱われる。（稲垣）

No.	所在地	原因	調査日	対象面積	対象地の種別	現況	採集遺物	開発への対応
1	黒河新字土代尻1424-9	住宅敷地の拡張	H12. 4.6	37㎡	未踏査地	標高2.9mの荒蕪地		支障なし
2	戸破字加茂1740-1	個人住宅建設	H12. 4.28	330㎡	未踏査地	標高5.0mの水田		支障なし
3	鷺塚586	個人住宅建設	H12. 4.28	552㎡	未踏査地	標高3.0mの畑地		支障なし
4	白石183-2	農機具格納庫	H12. 5.11	47㎡	未踏査地	標高1.4mの水田		支障なし
5	下条1592-2	個人住宅建設	H12. 7.27	498㎡	未踏査地	標高6.0mの水田		支障なし
6	黒河813-2	個人住宅建設	H12. 8.17	約163.33㎡	未踏査地	標高9.3mの畑地		支障なし
7	下条1065-3	個人住宅建設	H12. 9.11	395.85㎡	未踏査地	標高6.5mの水田	須恵器 1点	支障なし
8	戸破字若宮3672-5	敷地の拡張	H12. 9.11	284㎡	未踏査地	標高4.1mの水田		支障なし
9	青井谷181	個人住宅建設	H12.11.13	383㎡	未踏査地	標高12.0mの水田		支障なし
10	土代字宮ノ前1593	農機具格納庫	H12.11.13	33㎡	未踏査地	標高20.0mの荒蕪地		支障なし
11	浄土寺155-2	個人住宅建設	H12.11.21	498㎡	未踏査地	標高14.0mの水田		支障なし
12	上野402-2	店舗建設	H12.12.1	998㎡	未踏査地	標高9.5mの水田		支障なし
13	上野296-1の北の一部	個人住宅建設	H12.12.1	82.65㎡	未踏査地	標高9.5mの荒蕪地		支障なし
14	黒河431-2	個人住宅建設	H12.12.1	498㎡	未踏査地	標高6.0mの水田		支障なし
15	戸破1067-3	農機具格納庫	H12.12.20	110㎡	未踏査地	標高5.0mの畑地		支障なし
16	黒河字高山 4732-1・4732-2の一部	携帯電話基地局建設	H12.12.20	400㎡	未踏査地	標高31.0mの山林		支障なし
17	浄土寺242-1	農機具格納庫	H13. 2.9	387㎡	未踏査地	標高12.0mの埋立地		支障なし
18	下条2076-4	農機具格納庫	H13. 2.9	330㎡	未踏査地	標高7.5mの水田		支障なし
19	三ヶ519・520	駐車場	H13. 3.2	1,982㎡	未踏査地	標高3.5mの水田	弥生土器	支障なし
20	浄土寺337-2	資材置場建設	H13. 3.2	500㎡	未踏査地	標高16.0mの水田		支障なし
21	手崎1013	農作業場	H13. 3.8	185㎡	未踏査地	標高4.2mの既存宅地		支障なし
22	下条953外	統合小学校建設	H13. 3.22	28,500㎡	赤田東遺跡 隣接地	標高7.0～7.5mの水田	弥生土器・須恵器 珠洲・中世陶器・磁器	試掘調査必要
計 22件			延べ 22日	対象面積 37,193.83㎡				

表2 現地確認・分布調査一覧

4. 試掘調査

試掘調査とは、調査員の指示のもと重機あるいは人力によりトレンチと呼ばれる（幅1m程度、深さは状況に応じ調査員が判断する。）試掘溝を掘る。このトレンチの断面を人力で精査し観察することによって遺構の有無を確認し、出土した遺物の層位や広がり等を考慮しながら遺跡範囲を推定する調査である。

この調査は埋蔵文化財包蔵地内または分布調査により、試掘調査の必要性が認められた場合に行われるものである。

本年度小杉町教育委員会が実施した試掘調査及び工事立会は11遺跡15箇所である。事業別内訳は公共事業が5事業9件、民間事業6件である。試掘及び立会の結果、一部記録保存となった調査が2箇所あった。また、無届出で既に掘削が行われていたために断面の記録保存とした1箇所、明らかに遺跡であると判断したが一般木造住宅建設に限り支障なしとした1箇所があった。（稲垣）

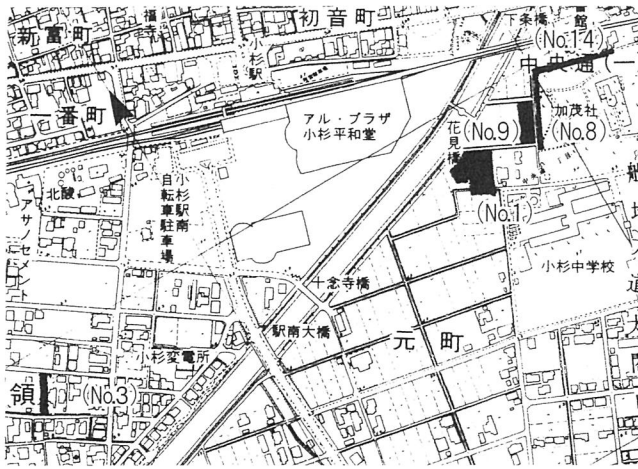
No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物	開発への対応
1	加茂社	戸破字加茂2020外11筆	宅地造成	H12.4.13・14 (延べ2日間)	3,761㎡	229㎡	散布地	溝2条	須恵器・小杉焼・不明施釉陶器・越中瀬戸	支障なし
2	上野北	上野306-2	農業用施設建設	H12.4.21 (延べ1日間)	144㎡	8㎡	散布地		土師器・鉄滓	支障なし
3	小杉伊勢領	三ヶ2292	個人住宅建設	H12.5.13, 6.6 (延べ2日間)	314㎡	3㎡	散布地			工事立会 支障なし
4	塚越貝坪	塚越字貝坪1000-1外	県営畑地帯総合整備事業（農道新設）	H12.6.22～28 (延べ3日間)	1,350㎡	54㎡	散布地 製鉄		土師器・須恵器・珠洲・瓦質土器・越中瀬戸・唐津	支障なし
5	塚越大沢Ⅱ	塚越字大沢502-1外	県営畑地帯総合整備事業（水路）	H12.7.6～16 (延べ7日間)	300㎡		散布地			支障なし
6	黒河西山	黒河新字西山4792	黒河新神明社社殿造営工事	H12.8.7・8 (延べ2日間)	5,857.19㎡	50㎡	散布地 製鉄	炭焼窯		現地確認 一部記録保存
7	塚越大沢	塚越字新堤255-1外	県営畑地帯総合整備事業（排水路）	H12.8.7 (延べ1日間)	900㎡		製鉄		鉄滓	工事立会 支障なし
8	加茂社	戸破字加茂2060外	町道145号道路改良工事	H12.9.1～13 (延べ5日間)	750㎡	82㎡	散布地	溝2条 土坑1基	須恵器・土師器	工事立会 一部記録保存
9	加茂社	戸破2043外2筆	宅地造成	H12.9.25 (延べ1日間)	994㎡	77㎡	散布地	溝数条 土坑	弥生土器・須恵器	掘削高が現況地盤から深さ30cm以上の場合は遺構に影響するので別途協議必要
10	HS-04	戸破4421-1	個人住宅建設	H12.10.31 (延べ1日間)	798㎡	55㎡	散布地		弥生土器	支障なし
11	HS-03	三ヶ610-1外	校舎建設	H12.11.10～13 (延べ2日間)	1,833㎡	146㎡	散布地		須恵器・珠洲・中世土師器・近現代陶器	支障なし
12	塚越貝坪	塚越字貝坪1000-1外	県営畑地帯総合整備事業（農道新設）	H12.11.13・14 (延べ2日間)	280㎡		散布地 製鉄	炭焼窯1基 土坑2基	土師器	工事立会 掘削断面記録保存
13	畑総No.17	黒河新字馬渡698外	県営畑地帯総合整備事業（排水路）	H12.11.14 (延べ1日間)	360㎡		散布地			工事立会
14	加茂社	戸破字加茂1992付近	公共下水道工事	H13.1.26, 2.5 (延べ2日間)	約270㎡	23.5㎡	散布地		近現代陶磁器	工事立会
15	針原西	黒河80外	町道東老田高岡線及び針原テクノパーク線整備事業	H13.3.28～30 (延べ3日間)	約4,000㎡	430㎡	散布地	土坑 溝	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器	一部発掘調査必要
計15件				延べ 35日間	対象面積	21,911.19㎡	発掘面積	1,157.5㎡		

表3 試掘調査一覧

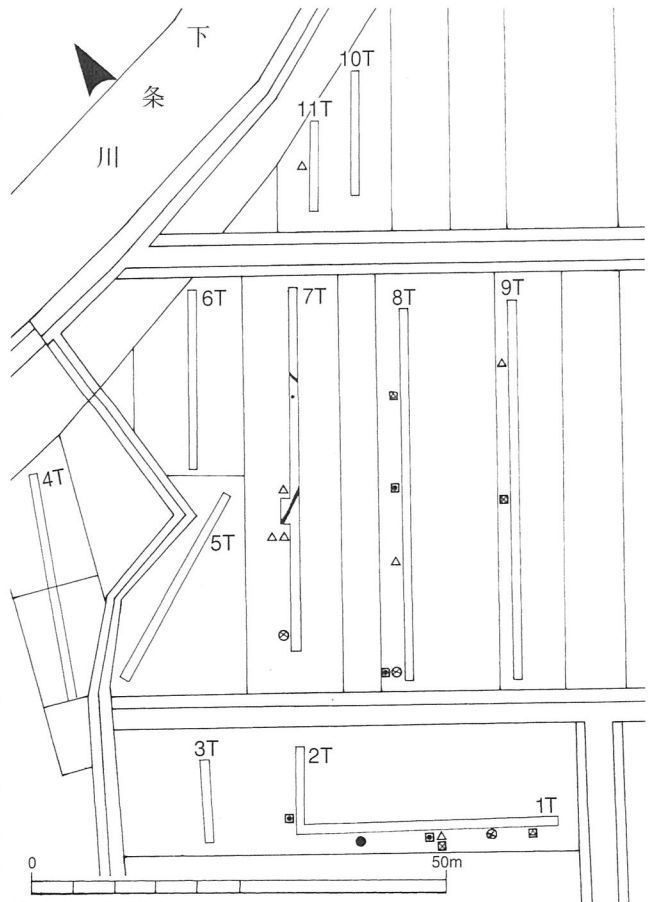
加茂社遺跡 (No.1)

調査地は下条川右岸の標高4.3mに位置する。4・6・10・11トレンチは約1.5mの土盛りがされており、おそらく下条川改修の際に埋め立てられたものと考えられ、調査地の下条川沿いは氾濫原内に位置していたと考えられる。

また、氾濫原の南側高台は遺構密度が非常に希薄で遺物量も少ないことから、加茂社遺跡の中心外に位置すると考えられる。(稲垣)



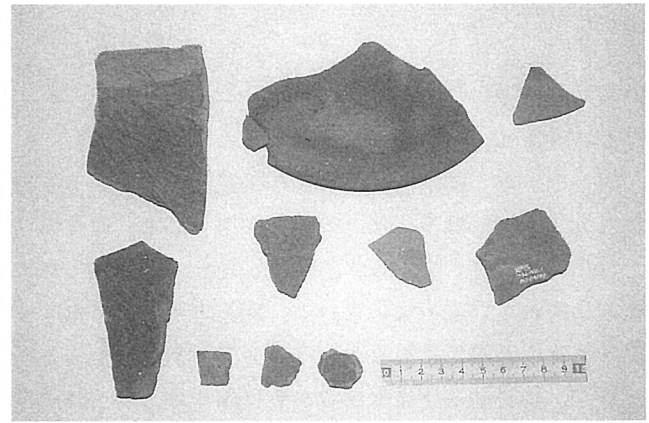
第2図 調査位置図 (1:10,000)



第3図 発掘区



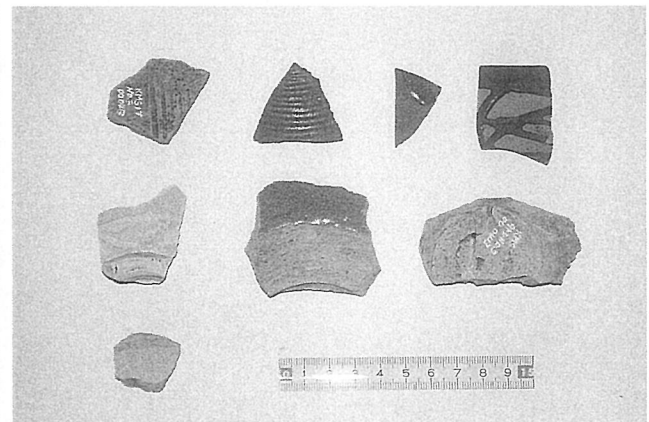
P.L. 1 調査風景



P.L. 2 出土遺物



P.L. 3 遺構検出状況

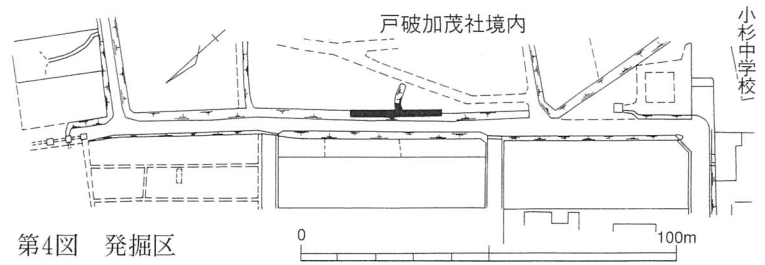


P.L. 4 出土遺物

加茂社遺跡 (No.8)

工事立会は既存町道から境内地に幅約2m入った箇所で行った。

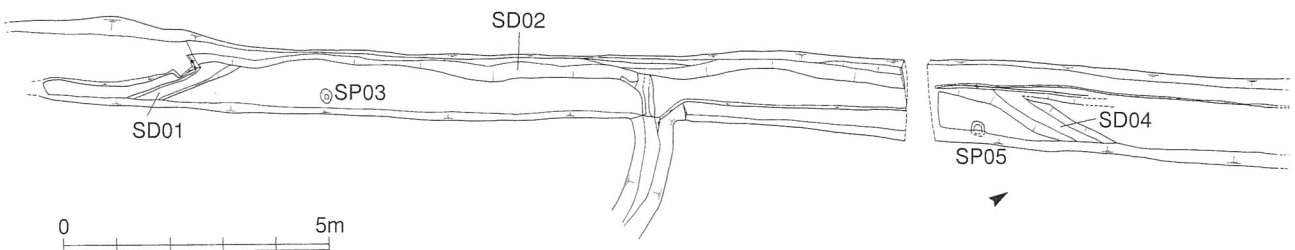
境内地は標高5m前後で北側に隣接する水田は最大で70cmほど低くなる。平安時代の遺物が表土から30~80cm下層にある暗茶褐色土からまともに出てきている。(原田)



PL. 5 調査風景



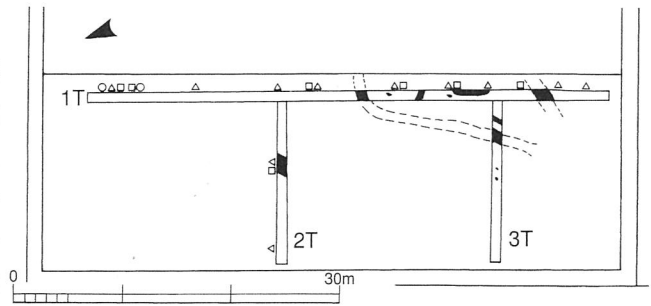
PL. 6 遺物出土状況



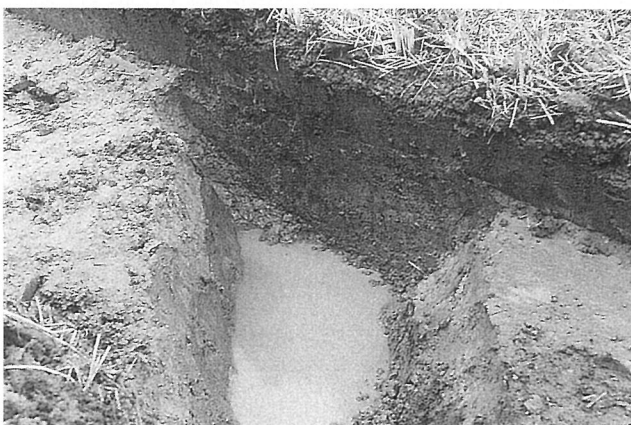
第5図 遺構図

加茂社遺跡 (No.9)

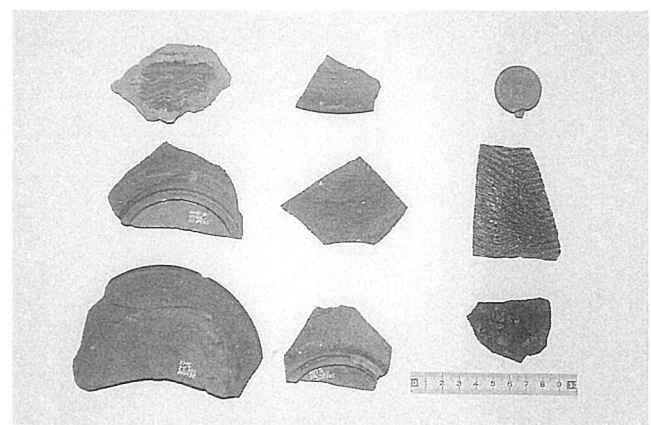
調査の結果、弥生時代と古代の溝数条、土坑数基を確認した。遺物は弥生土器と須恵器が出土した。弥生時代と古代の遺構は、現在の水田面から約30cm下の同一面に掘り込まれていると推定される。調査地は土盛り後、一般木造住宅が建設されるということで本調査に至らなかったが、集合住宅建設や現況から掘削が地下30cmに及ぶ場合は町教育委員会と協議することとした。(稲垣)



第6図 発掘区



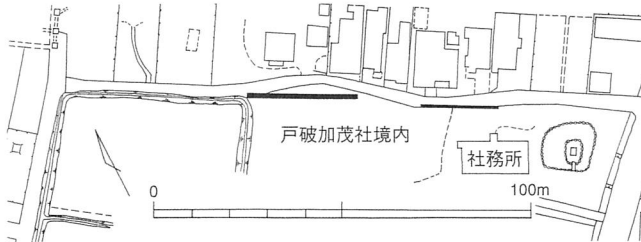
PL. 7 溝検出状況



PL. 8 出土遺物

加茂社遺跡 (No.14)

工事立会は、町道141号線敷き及びその南側の加茂社境内地の下水道管敷設に先立ち実施した。遺構確認は境内地の標高4.9~5.1mから約70cm程下がった黄茶褐色土または青灰色土で行ったが発見されなかった。(原田)



第7図 発掘区

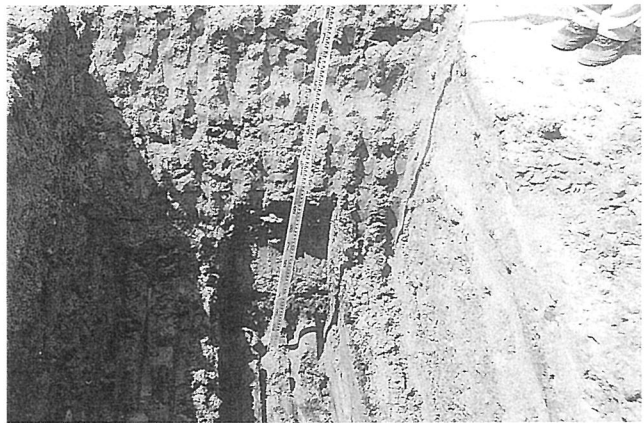
小杉伊勢領遺跡 (No.3)

調査対象地は2回の工事立会により確認した。1回目の立会調査は基礎工事の掘削で幅約50cm、深さ約30cmですで行われている盛土内の掘削にとどまった。また、2回目の立会調査では浄化槽施設範囲(3㎡)のうち、地山まで掘削を行うことができた約1㎡で遺構・遺物を確認することはできなかった。

近隣の状況から考えれば包蔵地内の可能性は捨て切れないが、対象地全体に約130cmの盛土が行なわれており、一般木造住宅ならば支障ないとした。(稲垣)



P L. 9 調査風景



P L. 10 調査風景

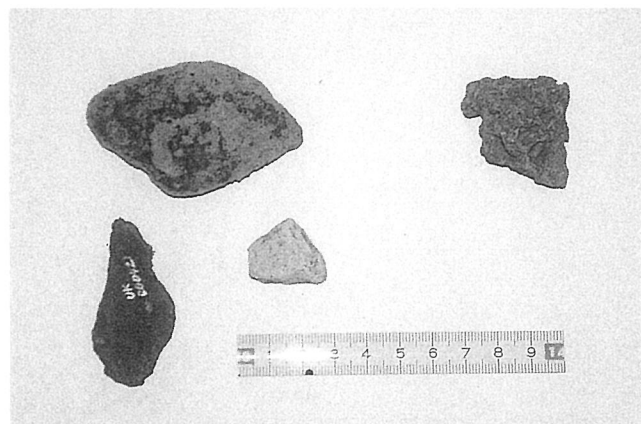
上野北遺跡 (No.2)

対象地の基本層序は①層：暗褐色土(耕作土)、②層：褐色土(漸移層)、③層：黄褐色シルト質土(地山)、④層：暗褐色シルト質土、⑤層：暗灰腐植土、⑥層：黒色粘質土である。

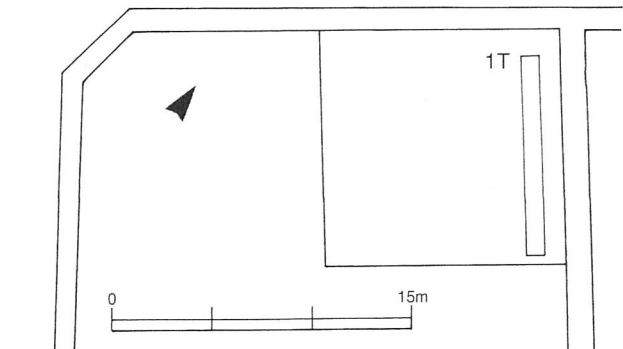
現在の立地と基本層序から考え、谷部が湿地化し長期にわたる緩やかな水の影響により、土砂が堆積し埋没したと考えられる。時期不明の土師質土器と鉄滓が出土しているが、遺構は確認できなかった。(稲垣)



第8図 調査位置図 (1:10,000)



P L. 11 出土遺物



第9図 発掘区

塚越貝坪遺跡 (No.4)

調査対象地は射水平野南端の谷部に立地し、県営東部六号用水路の右岸に位置する。

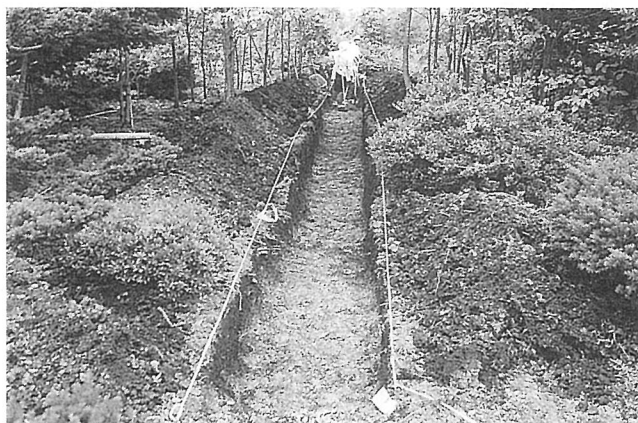
基本層序は上から1層が黒色土(約20~40cm)、2層が淡黒色土または灰褐色土の漸移層(0~20cm)、3層が黄褐色土の地山となる。遺構の確認は3層上面で行った。

遺構は近年の風倒木や根まきの痕が検出されただけで発見できなかった。

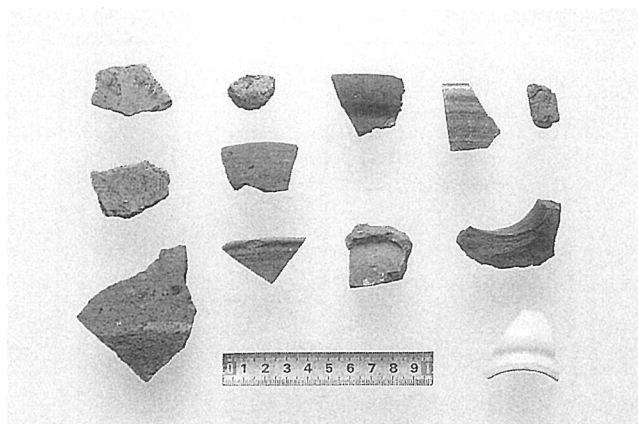
遺物は1層から土師器(甕)・須恵器(杯蓋・壺)・珠洲(甕)・瓦質土器(火鉢)・越中瀬戸(皿)・唐津などが出土した。(原田)



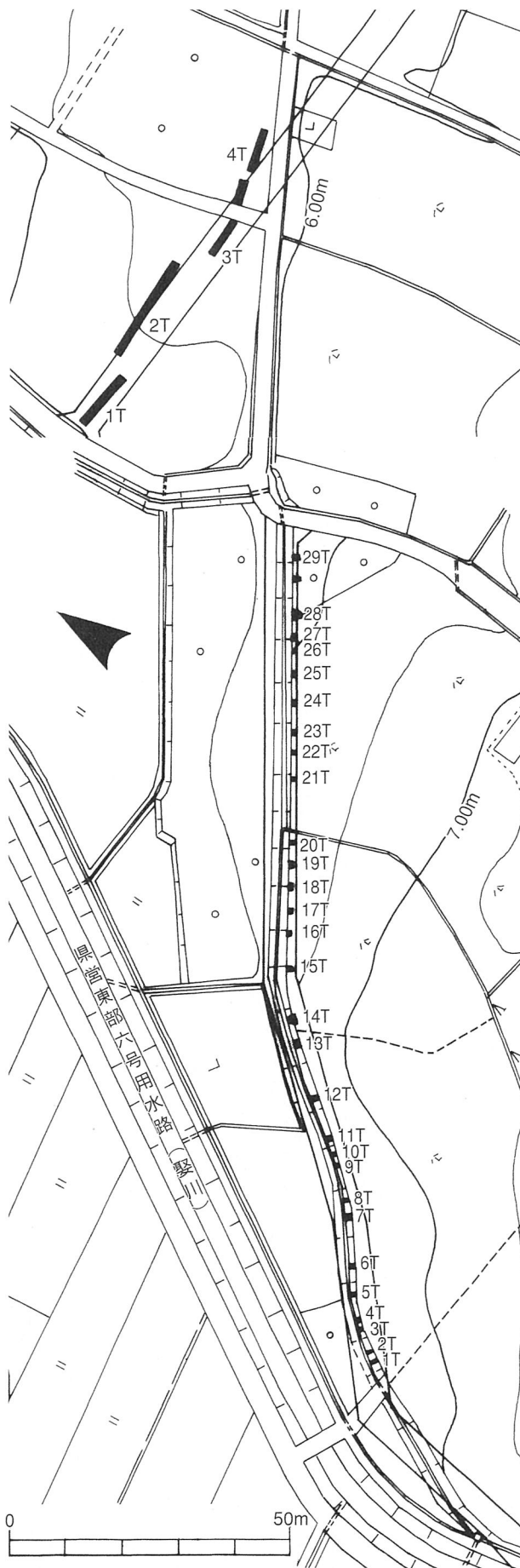
第10図 調査位置図 (1:10,000)



P L. 12 調査風景



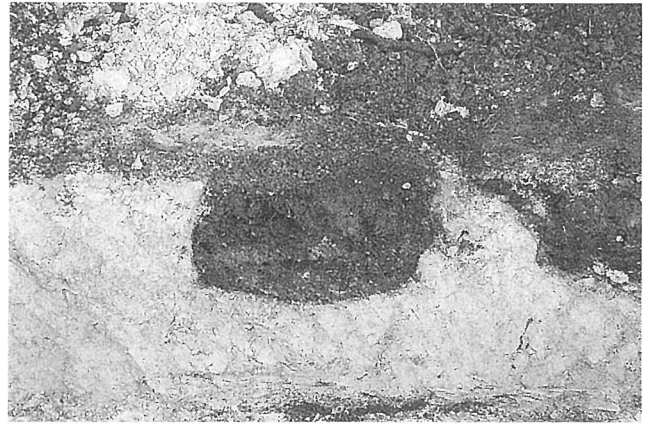
P L. 13 出土遺物



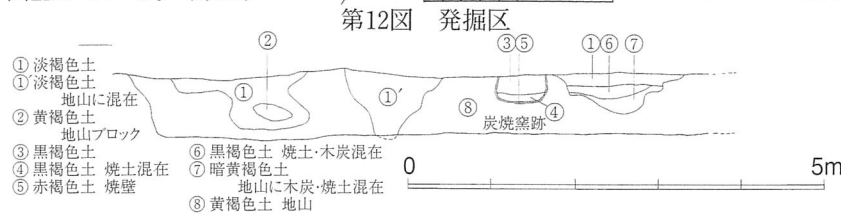
第11図 発掘区

塚越貝坪遺跡 (No.12)

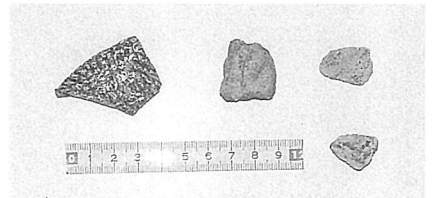
工事立会は娶川右岸沿いに拡幅を行う支線4号農道で実施した。平成11年度本調査区に隣接する掘削面で古代製鉄関連遺構の炭焼窯跡1基のほか粘土採掘穴が確認された。遺物は古代須恵器の瓶類土器片1点と土師器の甕片数点が土坑から出土している。(原田)



P L. 14 遺構検出状況



第13図 掘削断面図



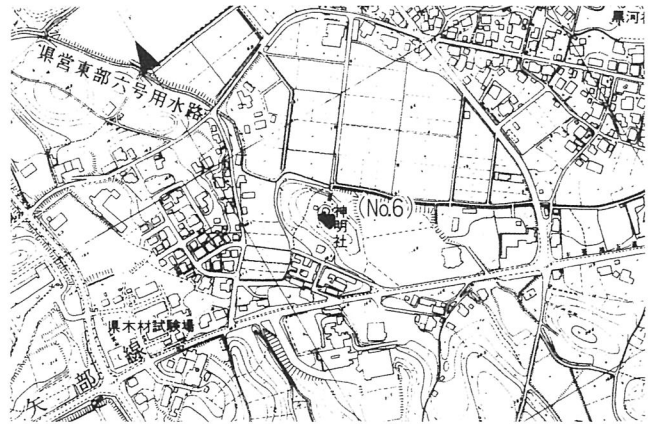
P L. 15 出土遺物

黒河西山遺跡 (No.6)

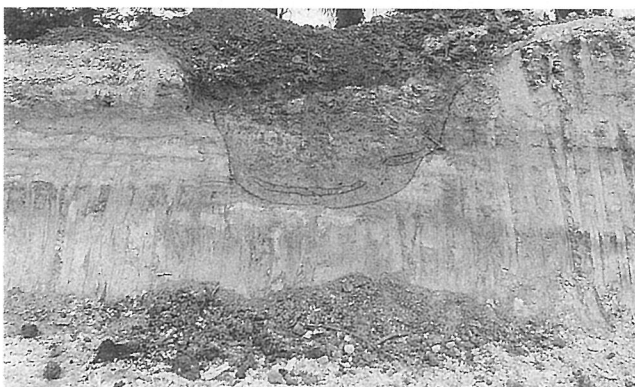
調査対象地は射水丘陵北端部の標高10~15mに位置する。溝状遺構は、緩丘陵頂部からやや東側に下がった位置で確認され、断面が逆台形となっている。底面上層部分の埋土に、厚さ約10cmの炭化物が混在する土層が堆積する。

昭和63年の発掘調査は、同丘陵の南東側約100mで行われ、古代の生産遺跡の遺構(炭焼窯4基・須恵器窯1基)などが見つかっている。

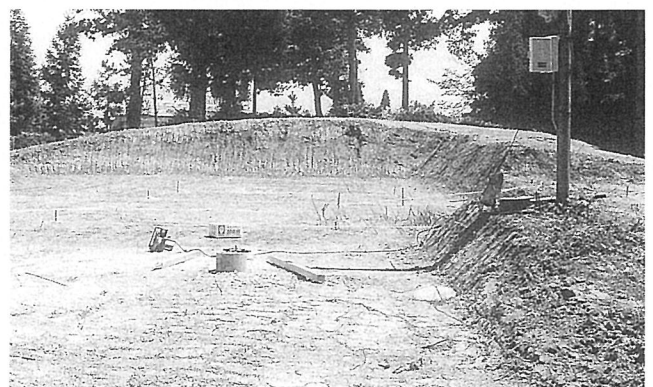
今回断面で観察した溝状遺構は、側壁面に焼土部分や埋土に剥落した焼壁が見られないなど、炭焼窯跡の特徴は確認できず遺構の性格を明らかにできなかった。(原田)



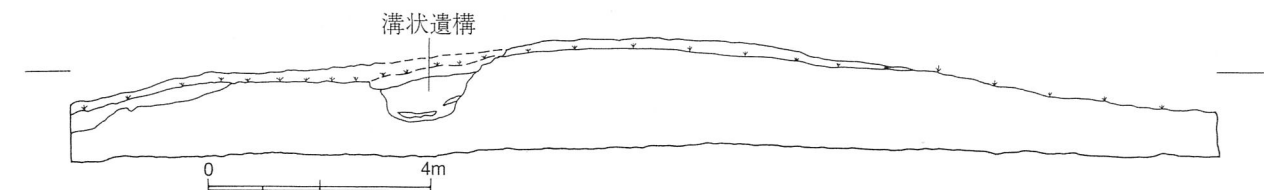
第14図 調査位置図 (1 : 10,000)



P L. 16 遺構確認断面



P L. 17 南壁断面



第15図 断面図

塚越大沢Ⅱ遺跡 (No.5)

調査対象地は射水丘陵の北端に位置する。水路工事に伴い立会を行ったが支障はなかった。

平成9年に隣接する東太閤山団地において試掘調査を行った結果、遺物・遺構がまったく認められず埋蔵文化財包蔵地外であると判断したが、調査対象地外の南東部で数点の遺物を採集した。また、古沢・黒河バイパス建設に先立つ本調査の範囲を考慮すると、おそらく遺跡の中心は高台となる東太閤山団地の南東、古沢・黒河バイパス付近あるいは以南ではないかと推測できる。(稲垣)



P L. 18 立会風景

塚越大沢遺跡 (No.7)

対象地は標高約13mの丘陵端部緩斜面に位置する。

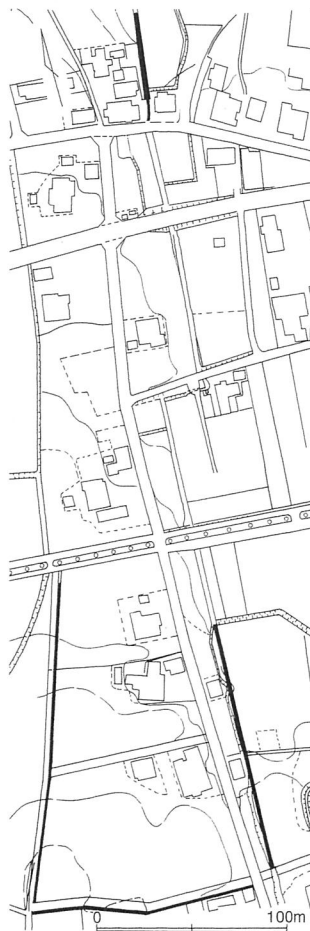
調査は、既存の素掘り水路にU字溝を敷設するための掘削作業に立会い実施した。

遺構確認は黄灰白色の地山面及び断面で行なったが、見つからなかった。

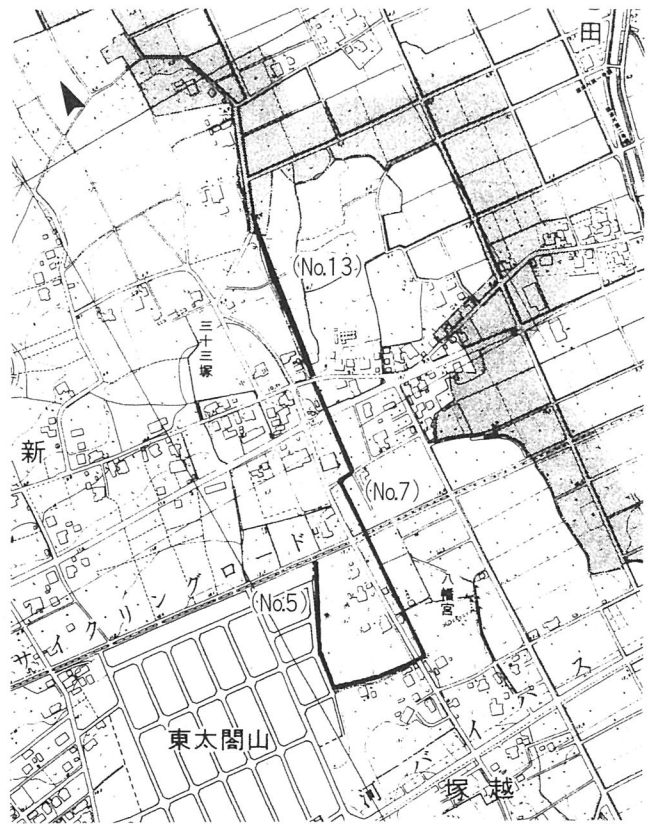
遺物は、表土下から炉壁と鉄滓が出土している。(原田)

畑総No.17遺跡 (No.13)

対象地は標高約9.5mの丘陵端部の舌下状に張り出した台地に位置する。側溝へのU字溝敷設に立会いを実施した。調査地南端から20m北側の掘削断面に、厚さ1.5cmの鉄滓層が確認された。(原田)



第17図 発掘区



第16図 調査位置図 (1:10,000)



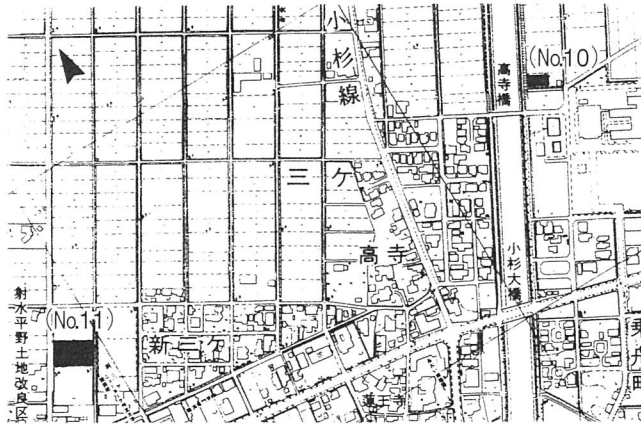
P L. 19 掘削風景



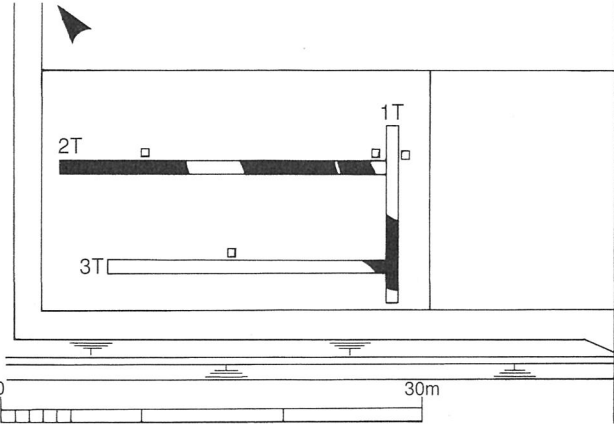
P L. 20 調査対象地

HS-04遺跡 (No.10)

対象地は下条川右岸、HS-04遺跡の南約100mに位置する。時期不明の落ち込みが認められたが、遺構と断定できる要素はなかった。出土した弥生土器は出土状況から流れ込みと考えられ、遺跡外であると判断した。(稲垣)



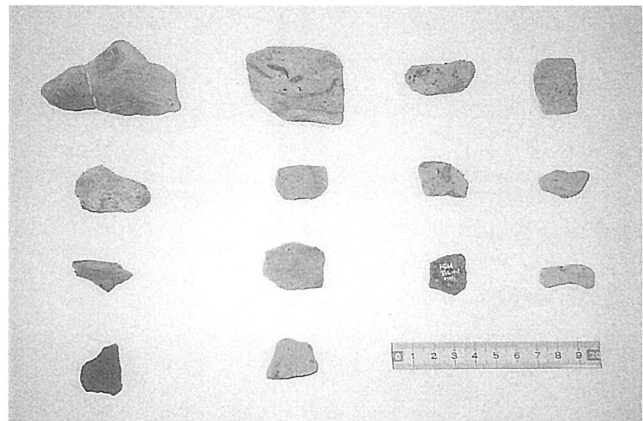
第18図 調査位置図 (1 : 10,000)



第19図 発掘区



P L. 21 調査風景

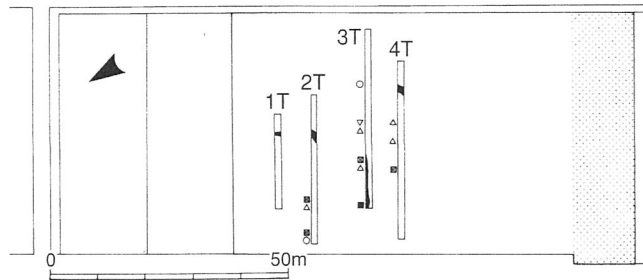


P L. 22 出土遺物

HS-03遺跡 (No.11)

調査対象地は下条川左岸の西約600mに位置し、溝状遺構数条を確認した。溝状遺構は埋土から遺物の出土がなく、時期を特定できなかった。

出土遺物は、奈良時代から中世に至る日用雑器類の土器片十数点が見られる。このため近隣に集落などの存在が想定されるが、対象地では集落に伴う遺構などは確認できなかった。(原田)



第20図 調査位置図 (1 : 10,000)



P L. 23 調査対象地

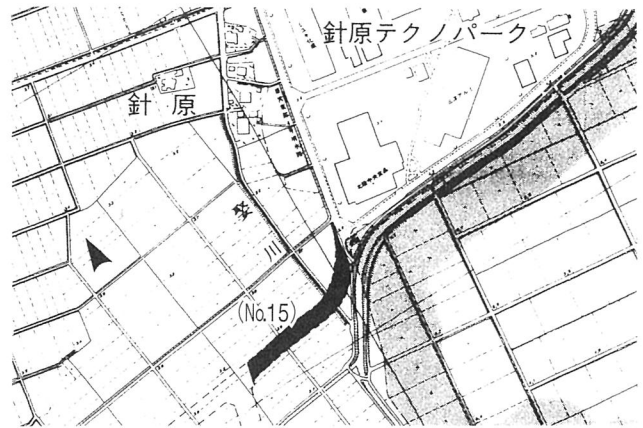


P L. 24 出土遺物

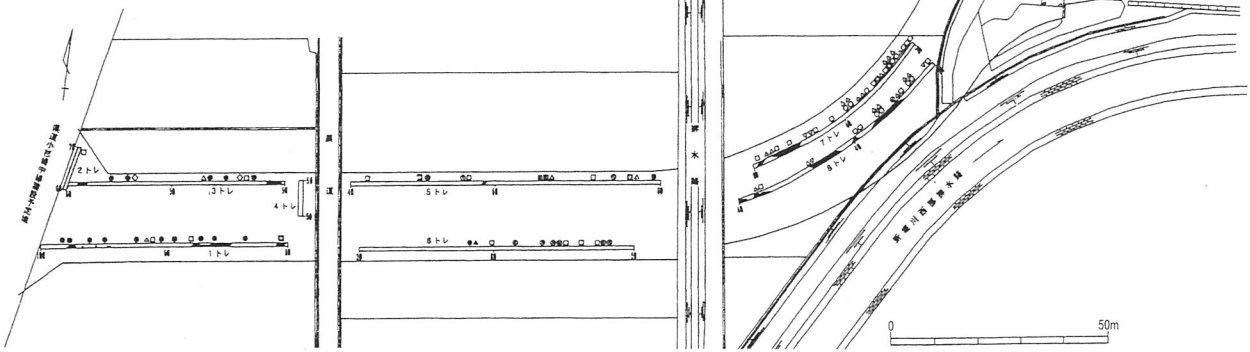
針原西遺跡 (No.15)

調査地は新堀川左岸、標高約3.4mの平野部に位置する。当初対象地は、分布調査結果から事前の試掘調査は不要と判断していた。しかし、本年度対象地の西側で実施した本調査から近隣に大規模な縄文時代集落跡の存在が想定されたため、試掘調査で確認することになった。

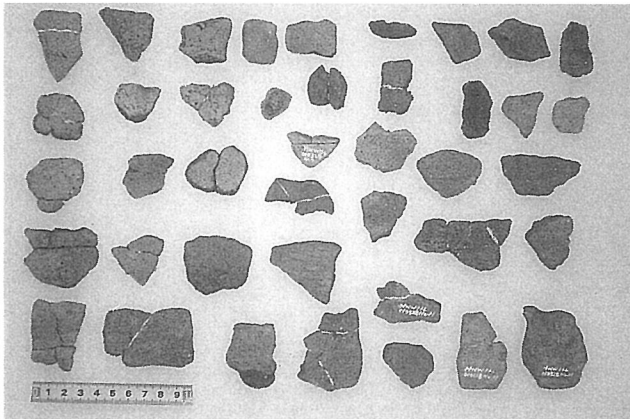
調査の結果、1トレンチ中に本調査で確認された縄文時代の川跡に続くと考えられる東西方向に延びる落ち込みを確認した。また、7・8トレンチの東端の包含層からは器形わかる弥生土器が大量に出土している。(原田)



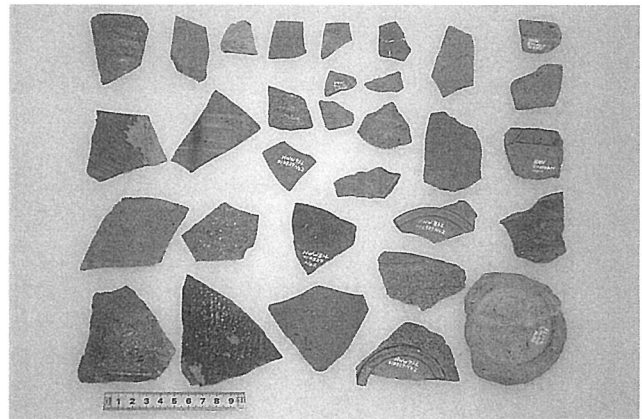
第21図 調査位置図 (1:10,000)



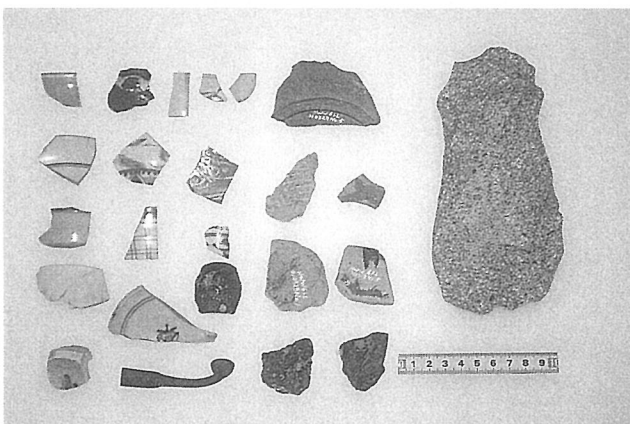
第22図 発掘区



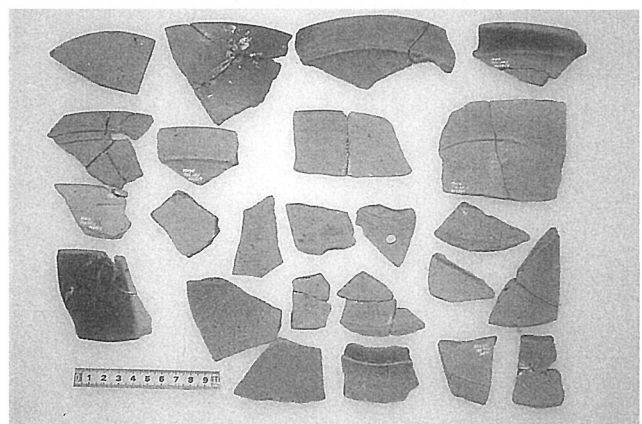
P L. 25 出土遺物 (縄文土器)



P L. 26 出土遺物 (須恵器)



P L. 27 出土遺物 (近世・打製石斧)



P L. 28 出土遺物 (弥生土器)

5. 本調査

平成12年度に教育委員会で実施した本調査は、2遺跡2件であった。事業内訳は公共事業1件、民間事業1件で、公共事業は町道建設に先立つ本調査で来年度も引き続き調査を行う。

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	種別	検出遺構	出土遺物
1	水蔵場D	小杉町入会地 131-1	宗教施設本堂建立 に伴う施設内整備	H12.5.15～26 (延べ10日間)	80㎡	生産	炭焼窯 1基	
2	針原西	小杉町黒河 75外	町道東老田高岡線 整備事業	H12.7.17～12.22 (延べ92日間)	2,000㎡	散布地	貝層・溝 川跡・土坑	縄文土器・弥生土器・不明土師器 古代須恵器・石器・木製品・金属製品 中世陶磁器・近世陶磁器
計	2遺跡			延べ 102日間	対象面積 2,080㎡			

表4 本調査一覧

水蔵場D遺跡 [No.1]

今回の調査で確認した遺構は、炭焼窯1基である。

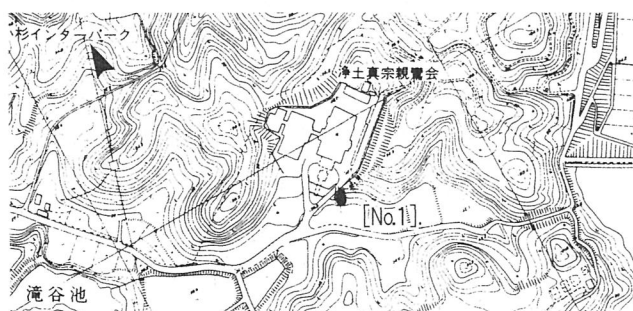
遺構の遺存状況は、昭和61年に行われた試掘調査の結果、炭焼窯1基、焼土坑1基を確認している。当時既に水田造成により炭焼窯の前庭部は削平を受け消失していた。今回の調査で確認されなかった焼壁土坑は昭和61年以降の植樹、抜根により削平を受け消失したものと思われる。

炭焼窯の奥壁煙出しの検出面は標高は36.00m、推定される前庭部の標高は33.20mで、南向きの約15°の緩やかな斜面に位置する半地下式の炭焼窯である。炭焼窯は等高線に対しほぼ垂直に構築され、左側壁から右側壁に向かってわずかに斜面が傾斜し、主軸はN-30°-Eに傾く。

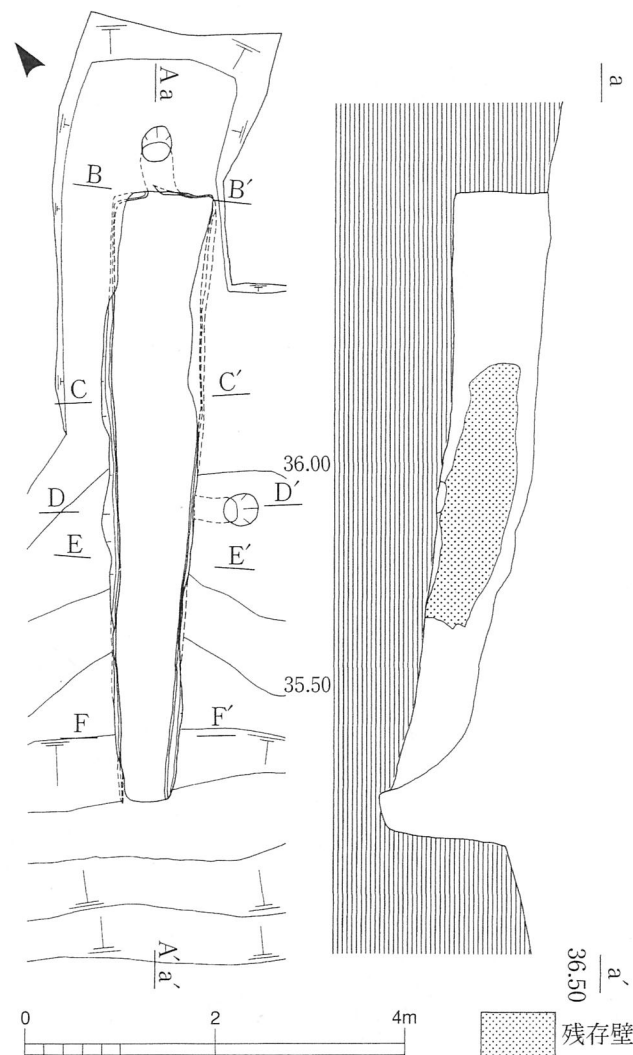
窯体は長さ7m、奥壁部分の幅約1m、中央部分の幅約1m、焚き口部分の幅約0.65mと小型の炭焼窯である。窯体床面は焚き口付近が約10°、中央部分から奥壁に向けて約5°傾斜し、奥壁煙出し付近ではわずかに下降し弓なりになる。床面は1枚で奥壁部分から焚き口にかけて炭化物の層が認められた。奥壁・側壁は剥落している部分がほとんどで工具痕は確認できなかった。

煙出しは奥壁煙出し1箇所と側壁煙出し1箇所を検出した。排水溝は奥壁煙出し煙道脇に端を發し、左右床面の縁に沿って焚き口付近まで掘られている。

炭焼窯の時期については出土遺物がなく、時期を決定し得る遺構がないことから断定できないが、炭焼窯の規模や形態は、本遺跡の北西約250mに位置する水蔵場H遺跡と類似する。この水蔵場H遺跡の11号窯の奥壁煙出しで煙道の土留に使われていたと考えられる鍋の年代が、8世紀後半～9世紀前半と考えられることから、ほぼ同一時期ではないかと推定される。(稲垣)



第23図 調査位置図 (1:10,000)



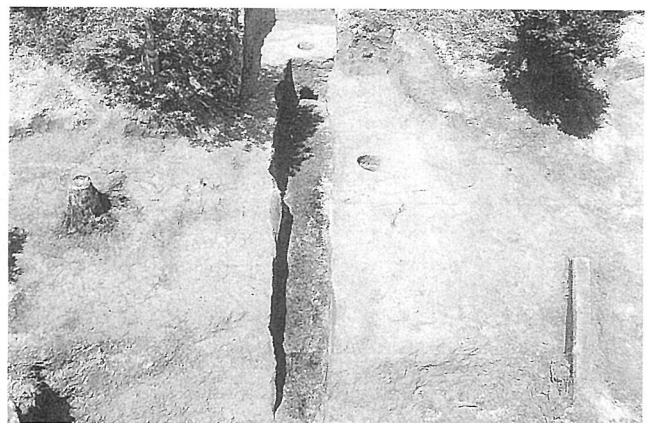
第24図 調査区



第25図 調査位置図



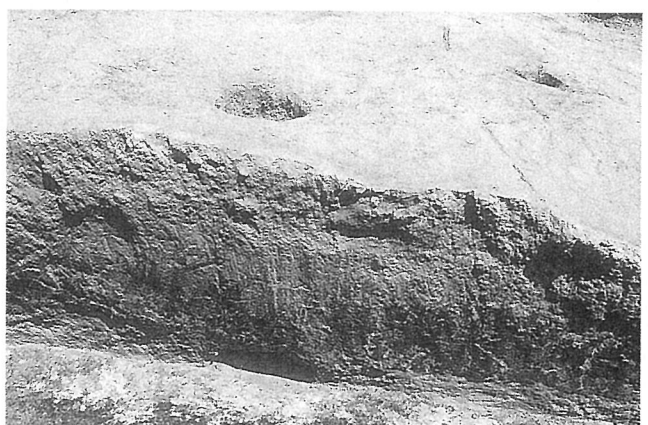
PL. 29 調査風景



PL. 30 1号炭焼窯



PL. 31 奥壁煙出し



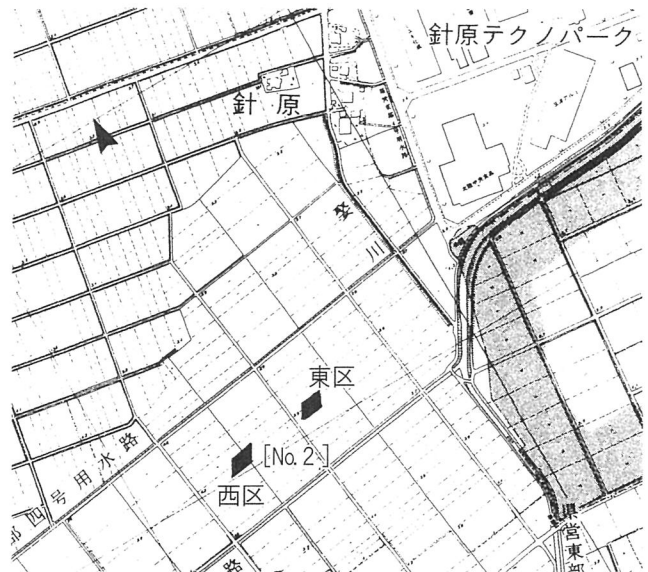
PL. 32 側壁煙出し

針原西遺跡 [No. 2]

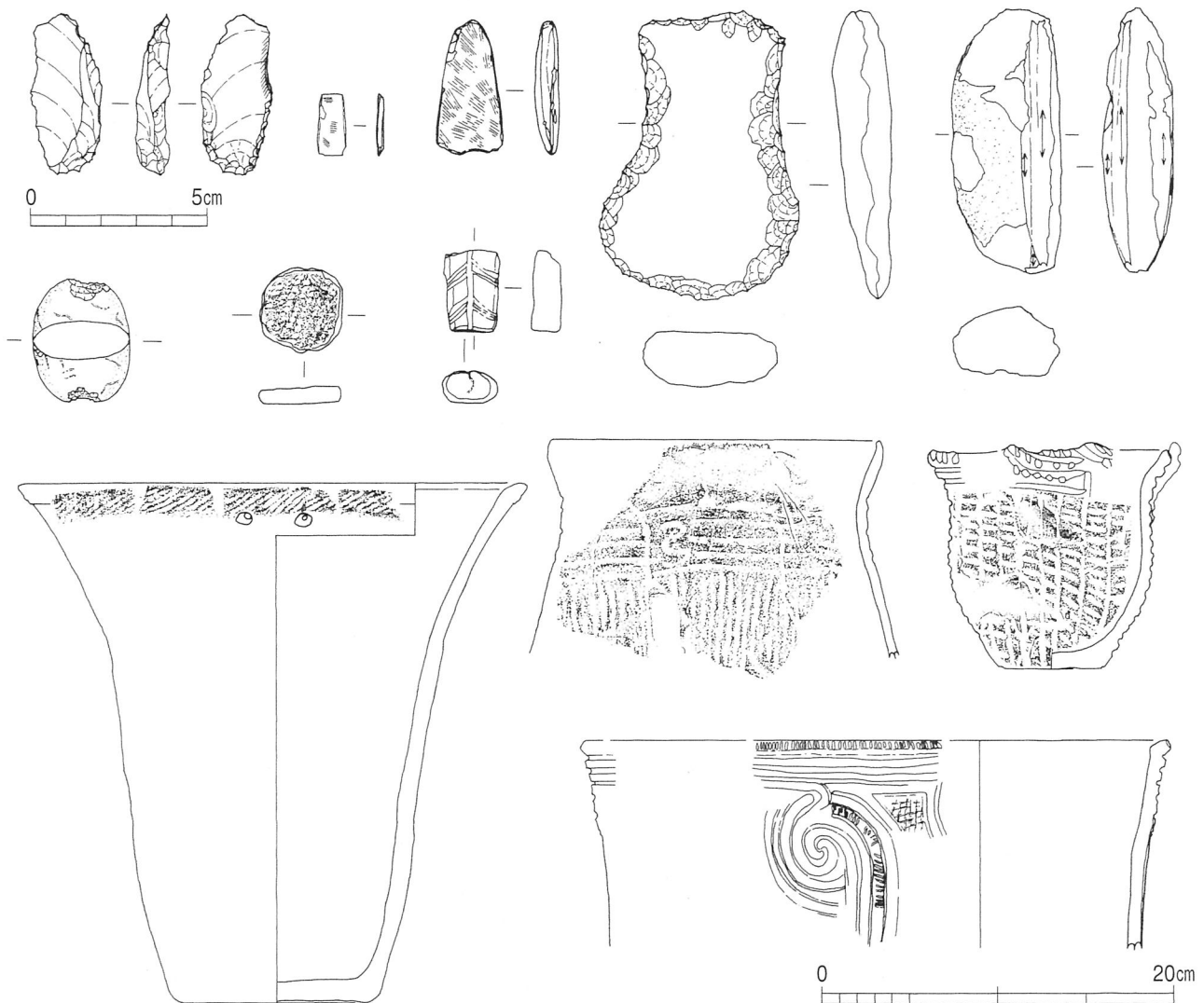
調査対象地は、標高3.0mの射水平野南端に位置する。調査地の東区を南東から北西方向に流れる川跡を確認した。この川跡からは、長さ124.9cm、最大径15.4cmの男根形木製品が出土したほか、直径約35cmの大きな丸太に直径15cmの丸材を打ち込んだ建築部材や掘棒・小型弓など、県内でも初出土の木製品が出土した。

その他、多量の土器片と土偶の一部が出土した。土器は縄文前期後葉から後期前葉に属するものが出土しているが、主体は中期中葉である。木製品の年代測定の結果も縄文時代中期中葉とほぼ一致する。

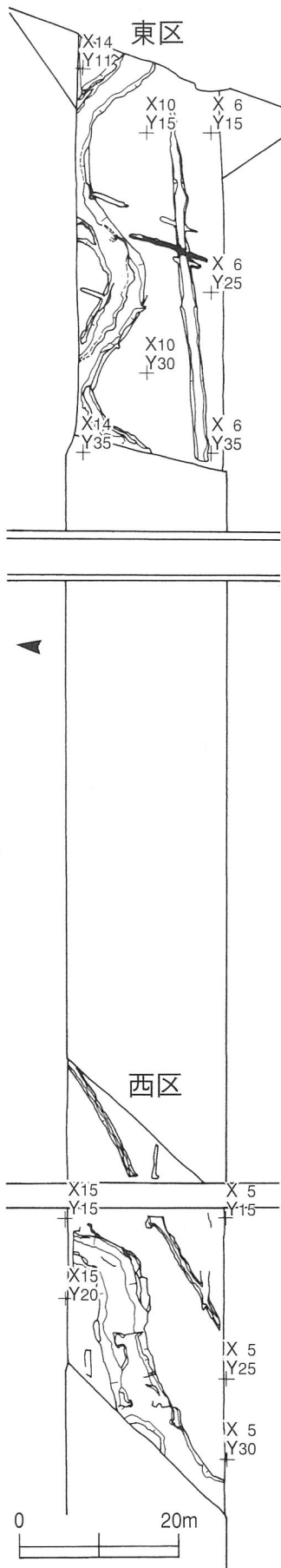
また、川跡から貝層を検出した。貝はヤマトシジミが主体で、一部カワナナなどの淡水産の貝や海洋性の巻き貝も含まれており、数種類の貝を確認したが稚貝が少ないことや化学分析の結果被熱したものが認められたことから、人為的に捨てられた貝の堆積であると判断した。(稲垣)



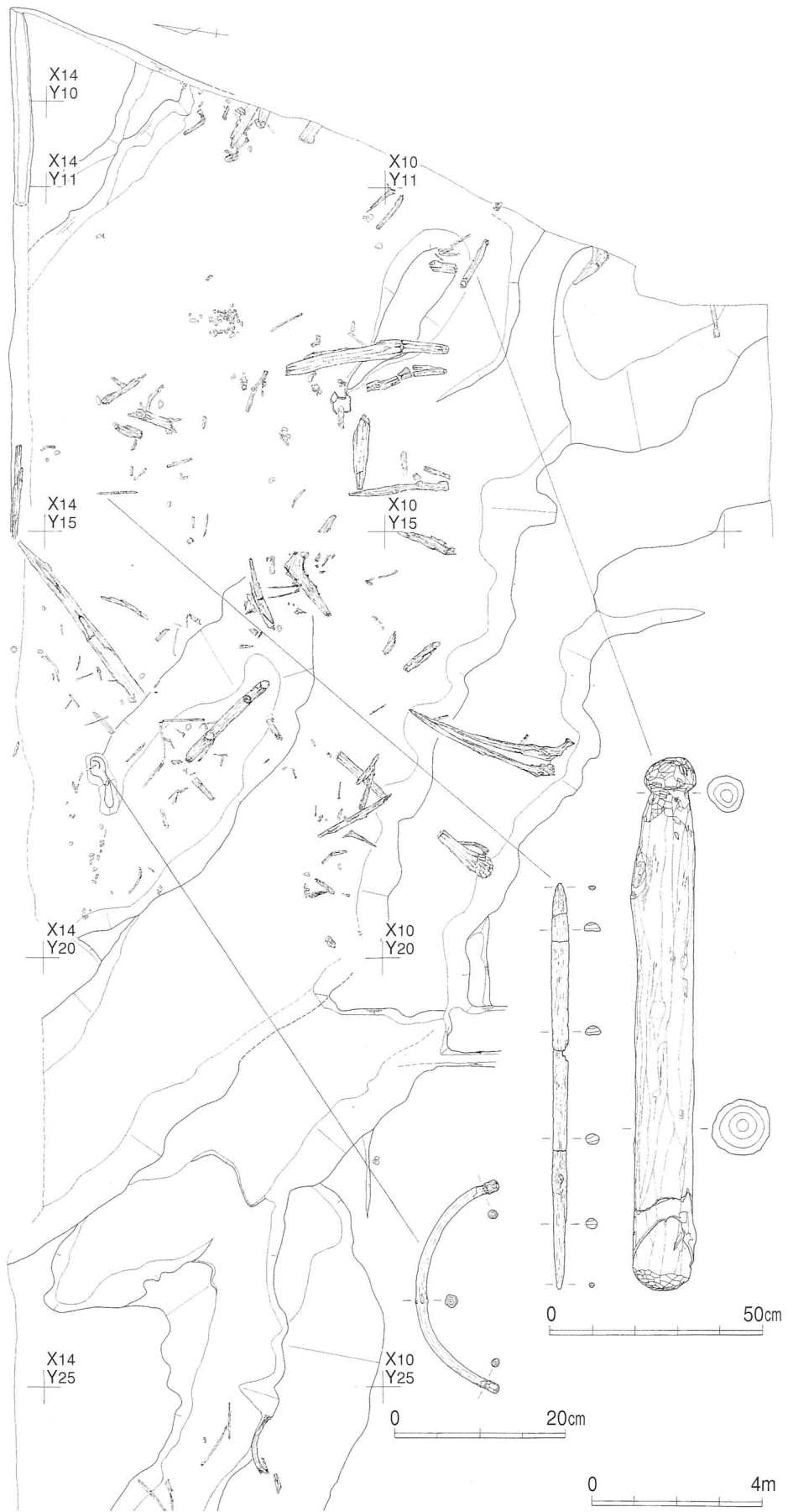
第26図 調査位置図 (1:10,000)



第27図 針原西遺跡出土遺物



第28図 調査区



第29図 縄文時代川跡 (木製品出土状況)



P L. 33 貝層検出状況



P L. 34 川跡・底面発掘作業風景



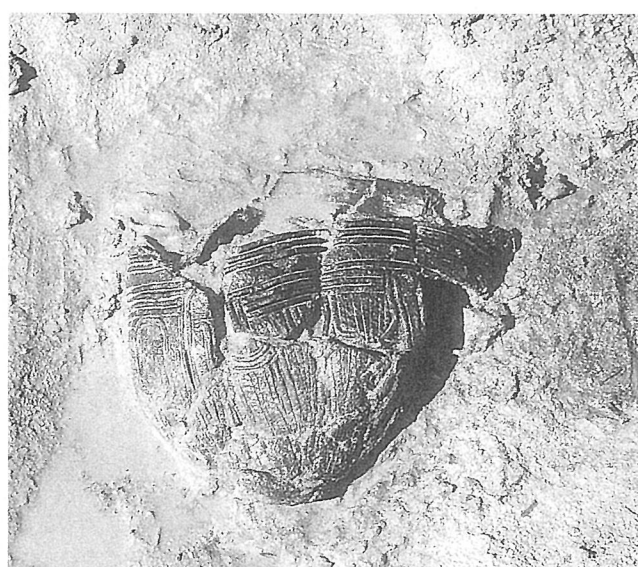
P L. 35 木製品出土状況 (小型弓)



P L. 36 木製品出土状況 (建築部材)



P L. 37 木製品出土状況 (掘棒)



P L. 38 土器出土状況 (縄文土器)

6. 普及・活用

(1) 埋蔵文化財整理室での作業

整理室では本年度に実施した針原西遺跡、本調査の遺物水洗・注記・分類・復元・実測と未刊行となっている発掘調査報告書の作業も並行して進めている。

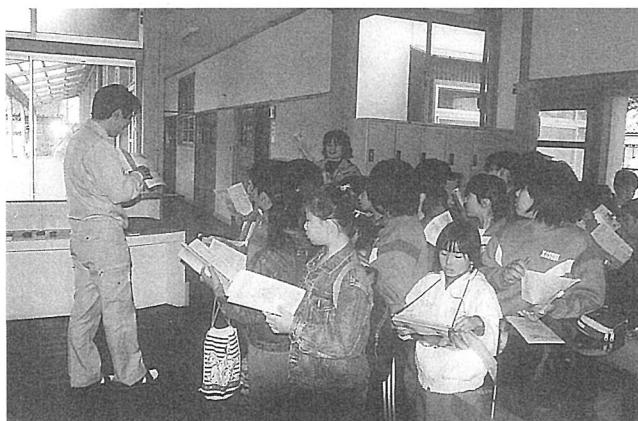
(2) 埋蔵文化財整理室の見学

平成12年度には次の見学があった。富山県埋蔵文化財センター(3名)、4月28日小杉小学校(115名)、5月15日文教厚生委員会(30名)、新潟県教育委員会(3名)、高岡市立博物館(2名)のほか、県内外から約120名の見学があった。また、町民展示館で11月9日より開催した針原西遺跡の速報展には104名の見学があった。

(3) 報告書などの刊行

平成12年度事業として、小杉町教育委員会が2001年3月までに刊行したものは以下のとおりである。

- ①『水藏場D遺跡発掘調査報告』(A4版6頁)
- ②『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 2000年度』(A4版18頁)



P.L. 39 小杉小学校6年生見学



P.L. 40 遺物洗浄作業



P.L. 41 小杉町社会に学ぶ「14歳の挑戦」



P.L. 42 実測作業

年度	現地・分布調査			試掘調査			本調査		
	件数	対象面積 (㎡)	延べ調査日数	件数	発掘面積 (㎡)	延べ調査日数	件数	発掘面積 (㎡)	延べ調査日数
5	※12	16,865	7	4	1,189	15	6	12,286	362
6	22	54,650	11	8	4,714	19	3	5,304	148
7	27	84,031	21	23	3,079	42	1	400	49
8	29	51,502	17	13	2,159	27	6	6,695	296
9	44	80,519	27	15	7,937	58	3	3,571	219
10	36	58,797	19	15	3,504	36	3	2,767	50
11	24	61,933.96	18	15	3,620.5	39	2	1,253	60
12	17	7,987.50	17	14	727.5	32	2	2,150	106

表5 小杉町埋蔵文化財調査件数などの年度別推移（県教委主体調査を除く）

※平成5年度発行の『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1993年度』第1表 分布調査一覧以降の調査数などを加算している。

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 2000年度

平成13年3月31日発行

編集・発行 小杉町教育委員会

富山県射水郡小杉町戸破1511

〒939-0393 TEL (0766)56-1511

印刷 日興印刷株式会社

